

県民の森 植物紹介 ⑥0 ハルニレ (ニレ科)

北日本を中心とした寒冷地に分布する落葉高木。春、葉が芽吹く前に花が咲いて実が出来るのが名の由来。小さな花が束になって咲きます。黄緑色の両性花ですが、雄しべの葯が鮮やかな紅色なので、まるで赤い花のように見えます。実は黄緑色で長さ1cmほど。6月頃に熟します。扁平で広い翼があり、風に乗って飛んでいきます。実や新芽は鳥たちの好物で、食事をしているのをよく見かけます。なお、アイヌ神話では、この木は女神。人間の祖先であるアイヌラックルを生んだとされています。県民の森では、昭和の森などで見られます。特に七滝登山口前のハルニレはよく目立ち、登山者からも親しまれています。新緑、黄葉、そして落葉後は樹形も美しく、一年中楽しめる木です。

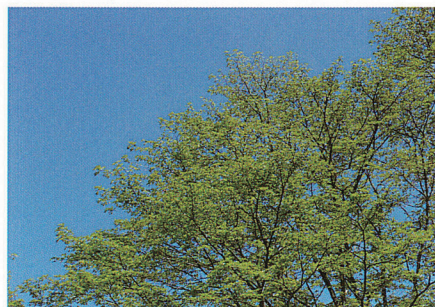


若い実を食べるマヒワ

2021年5月7日



花 2021年4月9日



深緑 2021年5月20日



実 2021年6月1日